ないキノウを、ある今日へ。

みんな、あきらめていた。ないものは、ないと。
誰もが過去に倣った。これが変わることのない常識だと。

そんな昨日を生きていた。
しかし私たちはあきらめなかった。

幾度の失敗を重ね、時に無謀と笑われた。
しかし、あきらめることなく、追究し続けた。
来る日も来る日も、知恵を集め、技を磨いた。

あらゆる流体の価値を守り、
必要とされている場所へ送り届けたい。
そう願う気持ちを胸に、挑み続けた。

だからこそ、うみ出せた。
ないキノウを、塗り替えた。

そして今、ある今日を生きている。
その先に、人々の新しい暮らしが始まる。
健やかなる社会が動き出す。

ないキノウを、ある今日へ。
そのために、またこの1日を、懸命に。
歩みを止めず、明日も、その先も、ずっと。

